

平井丈一朗

(チエロ奏者・作曲家)

恩師カザルスに捧げるプログラムで 2人の子息(平井秀明&元喜)と共演

訊き手||横谷貴一

「—60年間で一番の思い出は、やはりカザルスとの出会いでしょうか? 平井 やっぱりそうですね。カザルス先生に師事できるなどとは思つてもみなかつた夢のまま夢でしたが、1956年にロシアの名チエリストのピアティゴルスキイが日本に演奏旅行にいらした時に私の演奏を聴いてくださつて、「君はもうカザルスの所へ行くべきだ。そういう段階に来

20世紀の巨人カザルスの高弟であり、カザルス自身に後継者として世界に紹介されたチエリストの平井丈一朗氏が、演奏活動60周年を迎えたのを記念して演奏会を行う。共演するのは、指揮者の平井秀明氏とピアニストの平井元喜氏という、丈一朗氏自慢の2人の息子たち。3人揃つてのコンサートは滅多にないという。

—60年間で一番の思い出は、やはりカザルスとの出会いでしようか? 平井 やっぱりそうですね。カザルス先生に師事できるなどとは思つてもみなかつた夢のまま夢でしたが、1956年にロシアの名チエリストのピアティゴルスキイが日本に演奏旅行にいらした時に私の演奏を聴いてくださつて、「君はもうカザルスの所へ行くべきだ。そういう段階に来

とドヴォルザークのCDが昨年、ユニバーサルミュージックからリリースされました。

平井 今日はバッハの無伴奏組曲の3番を最初に弾きますが、無伴奏組曲は、解釈が一番難しいのです。無伴奏と言うと伴奏がないと思います

てくださいました。當時カザルス先生はスペインから亡命して、フランスのブロードという、ピレネー山脈の麓の町にいらっしゃいました。そこへ推薦状と手紙を出しましたら、喜んで弟子にしました。その直後、先生は中米のペルト・リコに住まいを移されたのでそちらに行くことになりました。

1957年の2月でしたが、先生のお宅に通り着いて玄関のチャイムを押しましたら、先生自ら出ていらして、遠くからよく来たと暖かく迎え入れてくださいり、早速聴きましたようと言つてくださいました。すぐに演奏しました。ドヴォルザークの協奏曲とバッハの無伴奏組曲の1番を弾きましたが、立ち上がりつづけて「ブラヴォ

ー! さあ今からレッスンを始めよう」と言つてご自分の愛器を持つてくださいました。夏の間は3カ月間くらいブロードにいらしたり、イスのツェルマットやイタリアで過ごされたりしていましたから、私も一緒に行つていました。

晩年でしたが、カザルス先生ご自身にも劇的に変化があつた時代でしたね。私がペルト・リコに行つてすぐに政府主催のカザルス・フェスティヴァルが始まりました。先生の指導はもの凄く熱が入つて、80歳なのにホールの大井が割れんばかりの大聲を出していましたから、大丈夫かなと心配していましたら、シューベルトの第5交響曲を練習していました。幸いなことに、当時のアメリカのアイゼンハワー大統領がご自分の侍医をして、遠くからよく来たと暖かく迎え入れてくださいり、早速聴きましたようと言つてくださいました。そのまま演奏しました。ドヴォルザークの協奏曲とバッハの無伴奏組曲の1番を弾きましたが、立ち上がりつづけて「ブラヴォ

ー! ヨークで記者会見をなさいました。世界中から50社くらいたった新聞社などが来ていましたが、私は同席させて、ここにいる平井丈一朗は自分の後継者だと言つて、私を紹介してくださつたんです。それで大きなニュースになりました。その後すぐに日本にいらして、「カザルス指揮、平井丈一朗特別演奏会」を行いました。それでシユーマン、ラロ、ボツケリー、ドヴォルザークの協奏曲を2晩でやりました。この時のシューベルトの第5交響曲を練習していました。幸いなことに、当時のアメリカのアイゼンハワー大統領がご自分の侍医をして、遠くからよく来たと暖かく迎え入れてくださいり、早速聴きましたようと言つてくださいました。その後にはマルティーナさんという当時門下生だった大変美しい方と結婚なさつたんです。彼女は20歳でした。

—えつ、孫みたいな!

いのです。

無伴奏の3番は、特にブロードで集中的に非常に厳しくレッスンを受けました。最終的に「そうだ、それだ!」と言つてくださいました。ですからこの曲は特に、私にとってはバッハの音楽に開眼した思い出の曲ですね。ドヴォルザークの協奏曲は、初めて先生にレッスンを受けた曲です

し、CDになつた演奏会でも先生の指揮で弾いた、先生との関わりの深い曲です。しかもこの曲は、カザルスのレコードによつて世界に知られるようになつたんです。

『幻想曲』といふのは一昨年ピアノと初演した曲で非常に好評だったので、今回はオーケストラ版で弾こうということで、日下編曲中です。これは「和」ですから、日本的な情緒を感じさせる曲という意味ですが、同時に平和の「和」でもあり、日本の感じを持ちつつも、国際的な音楽にしたいということで作曲しました。

『チエロとピアノと管弦楽のための詩曲「カザルスの思い出』は、お好きだったサルダーナという民族舞踊のシーンも盛り込まれています。最後に『鳥の歌』を弾きますが、この曲は先生が非常に大切になさつていらして、1年に1回か2回しか演奏しませんでした。そのくらい魂を込めて演奏なさつた曲です。ですから最後の2曲は、カザルス先生に捧げる意味でプログラムを組みました。ありがとうございました。



演奏活動60周年記念 平井丈一朗 チエロ演奏会

7月23日(木)19時 紀尾井ホール

〈出演〉

指揮: 平井秀明
ピアノ: 平井元喜
管弦楽: ダイアモンド・ジュビリー・オーケストラ

〈曲目〉

J.S. バッハ／無伴奏チエロ組曲 第3番ハ長調
ドヴォルザーク／チエロ協奏曲 口短調Op.104
平井丈一朗／幻想曲「和」
(チエロ&オーケストラ版、世界初演)
平井丈一朗／チエロとピアノと管弦楽のための詩曲
“カタロニアの思い出”
カザルス／鳥の歌
(カタロニア民謡)
♪インターミューズ・トキヨウ
TEL 03-3475-6870

T a k e i c h i r o H I R A I

平井丈一朗 (チエリスト/作曲家)

1937年、作曲家・平井康三郎の長男として東京に生まれ、小学校時代に既にピアノ協奏曲ほか約100曲を作曲し、ピアノで演奏会、放送にしばしば出演。桐朋学園でチエロを齋藤秀雄氏に師事。第23回日本音楽コンクール第1位特賞、第1回文化放送音楽賞特賞、第1回カザルス国際コンクール特別賞、ソ連作曲家同盟特別賞など数々の内外のコンクールで受賞。57年より5年間、巨匠カザルスに師事。師と共に欧米各地を旅しつつ研鑽を積み、チエロ音楽の蘊奥を究めた。61年4月、カザルスは愛弟子の晴れの帰国デビューを飾るため特別に来日し、平井は恩師の指揮により、東京と京都でドヴォルザークなど4大協奏曲を演奏、皇太子・美智子妃殿下(当時)の御来臨を得て華々しくデビュー。以来、ソリストとしての演奏活動は全世界40ヵ国にも及び、至る所で輝かしい成功を収めている。79年には世界でも例のない『弾き振りによる』三大協奏曲の夕べを開催。88年、米国ワシントンD.C.で開かれた第1回世界チエロ大会にナンシー・レーガン大統領夫人より招待を受け、特別ゲストとしてオープニング・コンサートで演奏し、多大な感銘を与えた。以降も多彩な活動を続け、特に世界飢餓救済や国際平和、被災地チャリティーなどにも力を入れている。作曲家としても、幅広いジャンルに特筆すべき業績を数多く残している。

—ありがとうございます。中世カタロニアの旋法の曲は先生が非常に大切になさつていらして、1年に1回か2回しか演奏しませんでした。そのくらい魂を込めて演奏なさつた曲です。ですから最後の2曲は、カザルス先生に捧げる意味でプログラムを組みました。

平井 そうなんです。それで世界的なニュースになりましたね。その新婚旅行に、先生の弟さんの奥さんと姪御さんと、それに楽器を持った私の3人が付いていきました。その後も、3人が付いていきました。その後も、4年半くらい旅して回りました。

最後に1961年4月初めにニューヨークで記者会見をなさいました。世界中から50社くらいたった新聞社などが来ていましたが、私は同席させて、ここにいる平井丈一朗は自分の後継者だと言つて、私を紹介してくださつたんです。それで大きなニュースになりました。その後すぐに日本にいらして、「カザルス指揮、平井丈一朗特別演奏会」を行いました。それでシユーマン、ラロ、ボツケリー、ドヴォルザークの協奏曲を2晩でやりました。この時のシューベルトの第5交響曲を練習していました。幸いなことに、当時のアメリカのアイゼンハワー大統領がご自分の侍医をして、遠くからよく来たと暖かく迎え入れてくださいり、早速聴きましたようと言つてくださいました。その後にはマルティーナさんという当時門下生だった大変美しい方と結婚なさつたんです。彼女は20歳でした。

—えつ、孫みたいな!